

# 教団新報

定 価 1 部 220 円 (本体 200 円 + 共 283 円)  
予約購読料 1 年分 共 3,962 円  
紙代のみ 3,080 円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話 03 (3202) 0546  
FAX 03 (3207) 3918  
URL <http://uccj.org>  
発行人 網 中 彰 子  
編集主筆 嶋 田 恵 悟  
印刷所 株式会社きかんし



伊東教会 (東海教区)

柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。  
マタイによる福音書 5章5節

## メッセージ

### 柔和な人々は地を受け継ぐ

マタイによる福音書 5章5節



上田 彰

#### 「もう一つの生き方」

聖書には、私たちの常識を静かに揺さぶる言葉があります。主イエスが語られた祝福もその一つです。「柔和な人々は幸いである」に続き、「彼らが地を受け継ぐ」と語ります。「地を受け継ぐ」とは、聖書の言葉遣いによれば、その人の子孫や志を継ぐ者が絶えることなく、その存在が確かに

受け止めるために、ウィクトル・ユゴーの不朽の名著、『ノートルダム・ド・パリ』に登場する鐘突き男、「クアジモド」を思い出してみます。社会からは異形の者と

とき、クアジモドは塔から駆け下り、彼女を群衆の中からさらい、大聖堂の中へと逃げ込みます。追う兵士たちに向かって、司祭が中から叫びます。「ここは聖なる場所であるぞ」。武器を持つて教会に押し入ろうとする権力を押し留めたのは、この一声でした。聖なる権威によって守られるのが教会という場所であり、社会の論理はそのまま通用しない、という宣言です。単に祈る場所を提供するというのではなく、社会的不正義の犠牲者を守る避難所、ある

#### 「聖なる場所」であり続けるため

最近、私が仕えている教会で、これまでの葬儀説教をまとめた小さな本を公にする機会が与えられました。ひとりひとりの故人を、クアジモドのようにして描く、つまり一般の歴史にも名を残す華々しい人物としてではなく、私たち信仰者が印象に刻むべき証しを残してくれた先輩として描く、そんな試みの積み重ねです。たとえば、いわゆる信仰的優等生でない故人であっても、残された者が信仰者として故人が人生をかけてなした証しに耳を傾け、受け止めることができる、と語る――これが葬儀司式者の務めです。世の価値観に流されず、時に不器用な

までには神様を信じ抜いた教会で、「柔和な人々」の姿を、思い起こします。信仰の先達の生き様。これこそ、教会の見えない土台となり、私たちが受け継いでいる「地」そのものです。「ここは聖なる場所であるぞ」という声を、神の選びの声として受け止め、その生涯をもって応答した人々の物語が、どんな教会にもあるのです。

「ここは聖なる場所であるぞ」という声によってせき止めねばならないものは、今日にも存在します。物理的な武器によらず、別の何かが既に社会を支配しており、そしてその勢いで教会をも支配しようとしています。効率主義や成果主義、あるいは世俗的な評価を教会の中に持ち込むことは、「柔和さ」のこわばりにつながります。

のを避けるためです。教会の交わりや会議において、現代の私たちが排除すべき「武器」とは何でしょうか。他者を論破しようとする自己主張や、世の成功体験に基づいた効率論を私たちが戒め、教会が「聖なる場所」であり続けるための努力が必要で、未熟だからといって信仰の声を押しつぶすことなく、またささやくような祈りの言葉を重んじる。教会を建てあげる、今はまだ細かい論

て、信仰の先達の姿から柔和な人々の志を見出し受け継いでいくとき、私たちもまた「地を受け継ぐ」群れに加えられるのです。

柔和な人々は、確かに幸いです。  
(伊東教会牧師)

#### 神の選びと祝福によって

教会が前進する力は、世渡りの知恵や巧みな戦略によるものではありません。「柔和な者が地を受け継ぐ」という主の約束は、神の選びと祝福に

よってのみ実現するので、この事実立つことなしに、私たちは一歩も前に進むことはできません。愚直なまでに柔和な生き方を、神自身が祝福してくださる。このことを信じることで、教会は神様の力によって前進します。「ここは聖なる場所である」という声は、私

ちを奮い立たせる声高な叫びにはならないかもしれませんが、しかし、それは静かに、そして確かに、私たちの心に響いてきます。その声を心に留め



# I Love Taiwan Mission

▶ 2025年7月3日～17日 ◀

## 「フォルモサの呼び声」

### 8名の青年を派遣

台湾基督長老教会 (PCT) 青年委員会主催の国際青年宣教プログラム「I Love Taiwan Mission (I-LT)」が今年も開催され、教団・台湾協約委員会から8名の青年が派遣されました。

今年のテーマ「フォルモサの呼び声 (Formosa's Voice)」(フォルモサはポルトガル語で「美しい」。台湾の別称) には、台湾の地域教会での経験や出会いを通して、PCTの160年にわたる宣教の歩みに触れ、励ましを受けて自らの教会に戻り、主に仕えてほしいという願いが込められています。

プログラム初めの3日間は、1872年にカナダから来たマッケイ牧師 (Rev. Dr. George Leslie Mackay) により設立された淡水教会および真理大学にて、全体

会場近くの十八尖山でのハイキングや、参加国ごとの発表による「カルチャーナイト (Culture Night)」も行われ、交流が深まりました。教団から派遣した8名は、台北中会士林教会、台中中会鹿谷教会、復興教会、彰化中会の萬興教会、嘉義中会の祥和教会、排湾中会の古華教会、魯

凱中会の神山教会、東美中会の長光教会へ各1名ずつ派遣されました。出発前にはオンライン・オリエンテーションを実施し、北海教区のディヴァン・スクールマン宣教師と国際日語教会のうすきみどり宣教師の協力のもと、台湾教会の歴史や原住民の背景について学びを深めました。

また、昨年の参加者2名も準備に加わり、プログラムの内容の説明や持ち物・心構えの共有を青年主体で進めました。さらに、事前に参加者間で連絡を取り合い、「カルチャーナイト」や派遣教会でのサマーキャンプに向けた準備も行うなど、主体的な参加姿勢が見られました。

(廣中佳実報)

#### 【参加者の声】

##### ★米田愛実

《報告書の抜粋》

「イエス様を持って行くのではなく、すでにそこにいてくださる」。この言葉を実感したのが、鹿谷教会での奉仕と出会いでした。自然と静けさに包まれ、地域の方々の温かさに触れながら、子どもたちとのキャンプを通して神様の愛を深く体

験しました。「谷川の流

れを慕いあえぐ鹿のよう

に、神よ、私の魂はあなたを慕います」(詩篇42篇)。静かな山の上で、神様の愛をさらに深く慕い求める心が与えられました。この恵みを今後の歩みに生かしていきたいです。

た。嘉義市の祥和教会で子ども向けサマープログラ

ムに関わり、言葉の壁を感じながらも多くの学びがありました。純粋に楽しむ子どもたちの姿に心被打たれ、自分を見つめ直す機会にもなりまし

た。聖書を分かち合う時間、昼食の時間など全てを切り取っても学び多い素晴らしい時間でした。

飾らない優しさを持った人々に出会い、たった11日間でも自分でも驚くほど長光教会と周辺の人々を好きになり、しまいは離れがたさに泣いてしまいました。この経験を通して、日本の子どもたちにも彼らがくれたさりげない愛と優しさを届けられる人になりたいと感じています。

##### ★杉本琴音

《野幌教会》

北海道の教会仲間の勧めでI-LTに参加しまし

##### ★森湖都葉

《月寒教会》

台湾南部の神山教会に派遣されました。台風の来、外出できない状況で、皆で机を囲んで他愛もない話をしながらカードゲームをした時間が私たちの仲を深め、相互理解に繋がったと感じています。子どもたちとの触れ合いも深い学びとなりました。感謝祭(感謝祭)には韓国語、日本語、英語、魯凱語、台湾華語の5言語で「なんて偉大なわれらの主」を賛美しました。今でも繰り返し聞いては、その度に祈り、賛美し、語り合った、言葉では表せないほど幸せ

##### ★西嶋莉里

《御影教会》

小学生の頃から母と教会に通っていましたが、信仰や聖書を深く理解できずにいました。昨年I-LTに参加し、神様の愛と仲間との絆に励まされ

ました。台湾留学中もその経験を思い出し支えられました。今年は士林教会へ派遣され、南部の子どもキャンプで奉仕をしました。キャンプの企画から運営までほとんど全て士林教会ユースが主体となっており、私も昨年より積極的に関わることができました。キャンプ後は、士林教会牧師の「PCTやUCCJのような組織や建物ではなく、あなた自身が教会なのだ」という言葉に感銘を受

##### ★指方虹希

《札幌北光教会》

私は台湾の復興教会に派遣され、地域の子どもたちと「花」(マタイによる福音書6章25〜34節)をテーマにしたサ

マーマーキャンプに参加しました。花瓶作りや生け花、日本と韓国の花にまつわる昔話を共有しました。こうした活動の中で「私たちは美しく彩られている」というメッセージをそれぞれが受け取る時間となりました。神の愛や命の尊さは言葉を超えて伝わることを実感しました。復興教会の人々は「一期一会」を大切に、私を家族のように迎えてくれました。国や言葉の壁を超えるやさしさは、人を生かす力だと感じました。この経験から、一度きりの出会いにも愛をもつて接し、その素晴らしいさを伝えていきたいと強く思います。

##### ★沖崎あいみ

《金城教会》

多様なあふれる台湾での共同生活を通し、信仰を土台に人と学び合い、つながる喜びを経験しました。派遣先の教会では50人以上の子どもたちと過ごし、キャンプや病院訪問、台風被災地への支援にも参加しました。言葉も文化も異なる中で、常に愛を注いでくれた人々の姿に、聖書の「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」という言葉を思い出し、隣人愛の本当の姿を体感しました。現代社会では、グローバル化が進む一方で、他者を排除する機運が高まってきています。その中において、私が今回学んだ「隣人愛」の実践を、まずは母教会の中

から始めていきたいと思いました。

##### ★榎本光太

《甲西伝道所》

二度目のI-LT参加でしたが、今回は屏東のパイワン族の古華教会に派

遣されました。前回は台中の都市部にある教会に派遣されたので、期待しつつ不安もありました。特に印象に残っていることは、普段やんちゃな子供たちが讃美歌を歌った

り、お祈りしたりというのを自然にしていたことでした。まさに「わたしとわたしの家は主に仕えます」(ヨシユア記24章15節)を体現するように村全体が信仰に生きていくように感じました。親

感謝します。



神山教会



UCCJ 参加者



◆教師継続教育研修会・教師委員会◆

取り継ぐ者として、共に聞き続ける

残暑厳しい真夏の京都。8月25～27日、関西セミナーハウスにおいて「2025年度教師継続教育研修会」が「説教・牧会」という主題で開催された。准允後10年未満の教師を対象に呼びかけ、11名の参加者が全国より与えられた。加えて

ら、それぞれに労苦している説教・牧会にフォーカスした学びが必要であるとの声から計画された。3日間のプログラムも集中的に説教・牧会について学び、また自らを振り返るときを与えられた。

この主題にふさわしく、開会礼拝、閉会礼拝はもちろのこと朝晩それぞれ礼拝をささげ、言葉に聞き続けることを与えられた。日頃言葉を取り次ぐことに悩む教師たちにとって言葉

を聞き続ける良い機会とされた。み言葉を取り次ぐ者たちが言葉に聞くことで豊かな養いに与ることとは、この研修会の目的

この継続教育研修会はタイトルどおり伝道献身者として実際の現場に派遣された教師たちの継続教育を目的としている。特に教会に仕えるなかで中心的な働きでありなが

に過っている。またみ言葉を共に囲む参加者同士の出会い、交わりもこの研修会のもう一つの側面である。地域も教会の規模も宣教の課題も異なる者たちが、お互いのことを語り聞きあうことを通して、伝道者としての使命を新たにされるのである。おのおの伝道・牧会の生活のなかで疲れを覚えてきた者たちが、志を同じくする伝道者同士の交わりを通していやされ励まされるときとされた。

るのに参加できない教師もある」との声も聞こえた。今後広報にも注力し、多くの教師と恵みを分かち合えるよう工夫したいと祈りを新たにしたい。

第4回委員会を開催。委員会では戒規解除の議案が取り扱われ、1名の教師の戒規解除が決定した。日本基督教団において、悔い改めに導かれる戒規本来の目的が果たされたことを感謝したい。

歳。北海道生まれ。58年同同志社大学大学院修了、同年より聖ヶ丘、水戸、緑野、矢板、東京池袋、南板橋、東京府中教会を牧会し、02年隠退。

加藤陽一(下関教会担任) 遺族は妻・山田信子さん。

教師異動

尾道吉和(代)鎌野 真



25年8月11日逝去、58歳。千葉県生まれ。01年東京神学大学大学院修了、同年より余市、足立、梅田、ベテル、下関教会を牧会。

遺族は妻・加藤真衣子さん。

遺族は妻・山本良子さん。

宇野靖治(隠退教師)

事務局報

日本聖書神学校卒業、94年より国分寺南、菖蒲教会を03年まで牧会。

遺族は妻・山本良子さん。

植松八一郎(無任所教師)

山岡 馨(隠退教師)



25年8月9日逝去、91歳。長野県生まれ。60年東京聖書学校卒業、同年より天門、初雁教会を牧会し、10年隠退。



25年8月9日逝去、91歳。長野県生まれ。60年東京聖書学校卒業、同年より天門、初雁教会を牧会し、10年隠退。

24年8月22日逝去、83歳。兵庫県生まれ。98年受允、00年受按。98年より01年まで本多記念教会を牧会。

遺族は妻・植松節子さん。

渡辺久純(無任所教師)

遺族は妻・山岡幸子さん。



25年7月30日逝去、90歳。埼玉県生まれ。93年



25年8月9日逝去、90歳。神奈川県生まれ。63年青山学院大学卒業、82年より武生、下妻シャ



25年8月9日逝去、90歳。神奈川県生まれ。63年青山学院大学卒業、82年より武生、下妻シャ

教師検定試験公告

2026年春季教師検定試験を左記の要領で行います。

一、受験要綱の申し込み

受験要綱と教団指定の願書用紙は165円切手を同封し、正教師受験志願者か補教師(A、B、Cコースの別も)受験志願者かを明記した上、封書でお申し込みください。

なお、正教師受験志願者は「教師検定規則第12条②」によるものに限りません。

二、受験願書の提出

受験願書と必要書類を整えて、受験料とともに所属教区に提出してください。

①教区締切 2025年11月17日(月)

(教区により締切が早まる場合がありますので、教区事務所に確認してください。)

②教団締切 2025年12月17日(水)

(各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です。)

\*受験料は正教師1万3千円、補教師1万円。

三、補教師について

①「説教」「祈義」の課題テキスト

旧約 詩篇23篇

新約 フィリピの信徒への手紙2章1～11節

②コースによって「説教」「祈義」の提出内容が異なりますので、必ず受験要綱でご確認ください。

③補教師(CⅢコース)の牧会学の課題

「牧会とは何か」について論述してください。

④Aコースについては、教師検定規則第4条第3号にもとづく試験が実施されます。

同対象者は、神学校を通して説明をうけ、それにもとづく手続をおこなってください。

四、正教師について

受験志願者は、直接教師検定委員会までお問い合わせください。

五、提出物説教、祈義、牧会学等締切について

当委員会への提出締切日は、2025年12月19日(金)午前中必着です。

六、筆記試験と面接試験について

筆記試験は2026年2月24日(火)、面接試験は2月25日(水)、26日(木)に日本キリスト教会館において実施します。

不明な点は直接、当委員会へお問い合わせください。

2025年9月27日

日本基督教団教師検定委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

電話 03-33202105 46



全国から11名が参加



## 統一協会の接触に関する注意喚起

高額献金や靈感商法の問題をめぐる2025年3月25日に統一協会（世界平和統一家庭連合）が東京地裁で解散命令を受けました。その後、全国のキリスト教会から「統一協会のメンバーが自分の教会を訪れ、礼拝や聖書研究祈祷会などの集会に出席させてほしいとお願いしてくるが、どうすればよいか？」という相談が寄せられています。

統一協会は解散命令が出る以前から「統一協会の解散命令は国家による信教の自由の侵害だ」「信教の自由を守るために同じ宗教者として解散命令に反対してほしい」というふうに、団体の擁護を求めてキリスト教会の信徒や牧師にアンケートの協力や反対運動の参加を呼びかけてきました。

最近では「統一協会の信者ですが、そちらの教会にも出席させてほしい」と集会への参加や宗教間対話を目的に掲げて、キリスト教会を訪れる事例が、あちこちで確認されています。このように、統一協会のメンバーであることを明かして、キリスト教会の礼拝や集会に参加しようとする動きは、全国で同時期に行われていることから、信者個々人の意志による行動というより、組織的な行動と思われる。

そこには「実際にメンバーと話してみると、普通の宗教団体で、他宗教との対話を大事にしている人たちだ」「世間の風当たりは強くなっているが、そんなに悪い人たちじゃない」「彼らは自分の信仰を守りたいだけだ」と思わせ、「一緒に信教の自由を守るため、味方になってください」という要請を断りにくくする狙いがあると思われる。

しかし、信教の自由は、宗教を「信じる自由」と「信じない自由」の両方が尊重されて成立するものであり、統一協会の偽装勧誘・靈感商法・不安や恐怖を煽った高額献金に見られる悪質な手口は、明らかに「信じない自由」を奪い、個人の自己決定権を侵害するもので、単なる布教の域を超えています。

今回の解散命令は、特定の思想信条を持つことを禁じるために決定されたものではなく、宗教活動を名目にした不法行為の被害拡大を防ぐために決定されたものです。統一協会の被害者家族や元脱会者、元「宗教二世」、救出支援に携わってきた弁護士、臨床心理士、公認心理士、社会福祉士、ジャーナリスト、宗教者など、多くの市民が、安倍元首相の銃撃事件前から、長年にわたって被害の実態を訴え続け、対策を求めてきた結果、ようやく下された決定です。

今後、統一協会の信者を名乗るメンバーから「そちらの教会に出席させてほしい」とお願いされた場合は「キリスト教の教会で、文鮮明や韓鶴子をメシアと信じて礼拝することを認めることはできません。統一協会の信仰を持ったまま、一緒に礼拝したいという要望には応えられません」「会衆を他の集会や運動へ誘ったり、連絡先や住所などを聞き出したりという行為もお断りしています」というふうに説明し、会衆の安全を確保するよう努めてください。

しかし、「統一協会の教えに疑問があり、キリスト教の教えを学んでみたい」「脱会するべきか迷っている」という方の話はよく聞いて、相談に乗っていただけるようお願いします。気になることや分からないことは、各教区の対策委員会かカルト問題連絡会のメール窓口へご相談ください。

2025年8月16日

日本基督教団カルト問題連絡会

## 摂理・新天地による生徒・学生への偽装勧誘に関する注意喚起

信者に対する性的暴行で教祖が実刑判決を受けた「キリスト教福音宣教会」（摂理、JMS、モーニングスター）が、一般的なキリスト教会のメンバーを装って、大学キャンパスの学生たちに声をかけ、集会へ誘うケースが報告されています。この団体は、以前から多くのダミーサークルやフロント組織を活用し、スポーツサークルやSDGsの勉強会、ボランティアなどを装って、SNSなどを駆使し、宗教の勧誘であることを隠して偽装勧誘を続けてきました。これと並行する形で、宗教であることを表に出して、聖書の勉強や教会のイベントに学生たちを誘うケースも確認されています。

一見すると、普通のキリスト教会のように見えますが、実際には、聖書の比喩的解釈を多用して、教祖の鄭明析（チョン・ミョンソク）をキリストに代わる「再臨主」として信じさせ、多大な時間を投資して、組織へ従うように誘導し、信者をコントロールする団体です。信者以外の人間には、自分たちが教祖を再臨主と信じていることを隠すように指導しています。

この団体を作った鄭明析は、靈感商法や高額献金による被害で解散命令を出された統一協会（世界平和統一家庭連合）の元信者です。統一協会で作られていた教材を元にして、教祖を再臨主だと信じさせるための講義を行っています。大学生だけでなく、中学生や高校生にも短期留学やオープンキャンパスで接触し、大学受験や資格試験と一緒に支える仲間となり、離れ難い関係を築いてから正体を明かして、忠実な信者に変えていきます。

摂理の他にも、感染病予防違反で教祖が逮捕され、既成キリスト教会の乗っ取り被害が訴えられている「新天地イエス教証しの幕屋聖殿（新天地）」という団体が、正体や目的を隠した勧誘と宗教であることを明かした勧誘を、並行して行っています。前者の場合、各種SNSやオンラインゲームのチャット、外国語を習得するための会話アプリ、出会い系サイトなどで、生徒、学生、若者と接触し、zoomを使った心理学・占い・聖書の勉強などに誘って、少しずつ信頼関係を築きながら、団体の教えを刷り込んでいきます。

また、聖書の勉強が始まると、家族や周りの人にはそのことを話さないようにとの指示を受けます。途中でおかしいと思って離れようとする、「地獄へ落ちる」「不幸になる」「やめてはいけない」と不安をあおられ、なかなか離れることができません。この団体も、聖書の比喩的解釈を乱用して、世の終わり（終末）の裁きの恐怖をあおって、信者を都合よくコントロールします。

これらの団体をはじめ、生徒・学生を取り込む破壊的カルトの手口が、ますます巧妙になっています。ぜひ、各学校での注意喚起や警戒を高め、対策を強化していただけるようお願い致します。

2025年8月16日

日本基督教団カルト問題連絡会



## 心、精神、思いを尽くして



横浜大岡教会員

3代目のキリスト者である母のもとで、聖公会の教会で幼児洗礼を受けた。カトリックの幼稚園に通い、中学・高校はミッション系のフェリス女学院で学んだ。

大学では行政法を専攻し、卒業後は神奈川県庁に入った。様々な働きを担った後、在日外国人の支援に取り組むことになる。国籍も職業も多様な外国人が多く住む神奈川県で、参政権の無い彼らの声を行政に反映させるため、公募によって選ばれた20名からなる「外国籍県民かながわ会議」の運営に携わった。この会議の提言から「外国人すまいサポート」や「医療通訳派遣」の制度が生まれた。この

二つのしくみは、今でも、県内で活発に利用されている。退職後も、「神奈川県国際交流財団」で外国籍県民支援のために働く場を与えられ、横浜YMCAの協力を得て、外国ルーツの若者が保育士の資格を得るための学習支援の仕組みを立ち上げることができた。

現在は、若い頃から教会の繋がりでフィールドワークに参加していた寿地区で活動している。毎週金曜日の公園での炊き出しや、地区内の「気楽な家」で、老人給食会に、所属している横浜大岡教会のメンバーと共に参加してい

「孫は子より可愛い」と聞いているが、ほんとうだった。1歳になった孫の名前を呼んで、「おいで〜」と言うと、手を広げてニコニコやって来る。オキシトシンがドバドバ出ると、このことか。

イエスは幼子を弟子たちの真ん中に立たせて言われた。「はっきり言っておく。心を入れ替えて子供のようにならないければ、決して天の国に入ることはできない」（新共同訳）。「心を入れ替えて」？いや、ちょっと違う。「悔い改めて子どもたちのよう

にならない限り…」（新改訳）も違うなあ。「向きを変えて子どもたちのように…」（新改訳2017）、これがいい。「心を入れ替えて」とか「悔い改めて」

## ふり向けば愛

じゃない。この言葉は、単に「ふり向け」という言葉だ。「翻って」（岩波訳）もいい。

「〇〇〇」と孫の名前を呼ぶ。振り返った瞬間のニコニコ顔、たまらん。神はいつも私た

ちの名を呼んでおられる。いつ気づくのかは分からないが、いつか気づいて、「ああ、私を呼んでいてくださったんですか」と、主の方を振り返ったとき、きつと神のオキシトシンはドバドバ、かもしれない。こっちに向かってくる息子の姿をはるか遠くに見つけたあの父親は、自分から走り寄って、見る影もなく汚く臭い息子の首を抱いた。神のオキシトシンが、いや愛があふれている。

（教団総会副議長 藤盛勇紀）